

株主の皆様へ

FUJI NIHON SEITO CORPORATION

第 **98** 期
中間報告書

2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日

 **フジ日本精糖株式会社**

証券コード：2114



企業理念

私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献します。

経営方針

- ① 顧客第一主義の徹底
- ② 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成
- ③ 公正で透明性のある企業活動の推進
- ④ 社会に評価される企業価値の向上
- ⑤ 社会に貢献する企業市民活動の充実

CONTENTS

トップインタビュー	P 2
セグメント別の状況	P 5
連結財務諸表	P 7
会社概要/株式情報	P 9
インフォメーション	P10
株主メモ	裏表紙

● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田 和人が撮影した作品です。



撮影地 - 富士宮市 佐折 - 「田貫湖Wダイヤモンド富士」

トップインタビュー

今後の消費回復を期して、業績の挽回を図ります。

Q 当上半期の営業状況についてお聞かせください。

A イヌリンは順調に拡大。精糖事業とユニテックフーズ株式会社はコロナ禍が響き、厳しい業績となりました。

当上半期は、一般的に新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受ける状況となりました。当社は、在宅勤務の実施、対面による営業活動を回避しWeb面談を活用するなど、感染防止対応を徹底しつつ、取扱商品の安定供給に努めました。

主要事業の営業状況を振り返りますと、精糖事業は、本年4月の緊急事態宣言により人の動きが制限され、連休にかかる荷動きが不調となったことなどから、例年よりも販売数量が減少し、減収・減益となりました。

機能性素材事業は、イヌリンの販売が国内・海外ともに伸長しましたが、連結子会社ユニテックフーズ株式会社が販売する天然素材の添加物は、介護関連分野は、堅調であったものの、コロナ禍により菓子その他食品向け消費が落ち込み、当事業全体では減収・減益となりました。

イヌリンの国内販売は、採用獲得に向けた営業活動が感染防止対応の中で制約を受けましたが、新型コロナウイルス感染症が発生する以前に採用が決定していた商品が上市されたり、巣ごもり需要により一部採用商品の家庭内消費も増加したことから、好調に推移しました。腸の活性化による免疫機能改善効果への注目も追い風となっています。イヌリンの海外販売は、タイ国内およびフィリピンで大手乳業メーカー向けの採用が決まった他、ベトナムやマレーシアなどアセアン諸国における採用先も増加し、販売を拡大しました。

結果として上半期の連結業績は、売上高が91億60百万円（前年同期比5.2%減）となり、利益面は、減収の影響に加え、本年9月の本社移転にかかわる費用が発生したことなどから、営業利益6億98百万円（同20.1%減）、経常利益8億36百万円（同18.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益5億83百万円（同20.8%減）となりました。



代表取締役社長 櫻田 誠司

Q 中期経営計画にもとづく取り組みの進展はいかがですか？

A 非砂糖分野の拡大と海外展開が着実に進展。下半期からいよいよ新人事制度を導入しました。

現在推進中の中期経営計画では、「非砂糖分野のさらなる拡大」「輸出入・三国間貿易による海外への挑戦」「社員教育の強化と新人事制度の導入」「ESG（環境・社会・ガバナンス）経営の推進」の四つを基本戦略に掲げています。環境変化に対応し、独自に成長を持続できる会社を目指すもので、毎期3ヵ年計画の業績目標を見直しています。

当期は、特に新型コロナウイルス感染症の影響もあり、下半期は、ベース事業の精糖事業の挽回を図りつつ、四つの基本戦略を進めていくこととなります。当上半期の取り組みによる進展を述べますと、「非砂糖分野のさらなる拡大」および「輸出入・三国間貿易による海外への挑戦」では、前述の通りイヌリンの販売が順調に拡大し、成果を上げています。イヌリンの海外での販売は、タイ国内・アセアン諸国に続き、アセアン地域以外からの引き合いもいただいております。新たな成長段階に入ったと言えます。すでにイヌリンの販売比率は、当上半期において海外での販売数量が日本国内を上回るまでになりました。また、タイ連結子会社DAY PLUS (THAILAND) Co., Ltd.は、2019年末から投入したロングライフ・ケーキ製品の販売が好調に推移しています。コロナ禍の影響でサプライチェーンの停滞が生じる中、長距離輸送に適し、フードロスの削減にもつながるロングライフ製品のメリットがあらためて注目されるようになりました。今後はタイ国内だけでなく、アセアン諸国他への輸出にも注力し、同社事業の一つの柱としていきます。

日本国内における非砂糖分野の拡大では、ユニテックフーズ株式会社もHBS（ヘルス・ビューティー・スポーツ）分野における機能性素材の開拓を進めようとしており、従来から取り組んでいる介護関連分野以外に、今後は、トレーニングジムやアスリート向け分野を手始めに、積極的な情報提供

活動を展開していきます。

「社員教育の強化と新人事制度の導入」は、本年4月を予定していた新人事制度の導入が半年遅れ、この10月に実施しました。改善点として、若手社員のキャリアアップシステムの整備に主眼を置き、部門間の人事交流・人材流動化を促進しつつ、人材育成の強化を図る制度となっています。また社内では、新人事制度の導入に先立って実施した本社移転により、各部門がワンフロアに集約され、コミュニケーションの活性化と業務効率の向上による効果が生まれています。

「ESG経営の推進」については、引き続き事業活動における環境負荷の低減と社会価値の提供に注力し、企業価値の拡大に資する健全で透明性の高い経営を担保すべく、コーポレート・ガバナンスの拡充に努めています。これらの推進は、中期経営計画としてのみならず、当社が持続的成長を実現するための前提条件と認識し、継続してまいります。

Q 下半期の見通しと通期業績についてお聞かせください。

A 消費回復傾向とイヌリンの伸びを見込む。上半期のカバーに向け一層努力します。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、依然として予断を許さない状況にあります。下半期はある程度、全般的に消費

の回復が進み、精糖事業および機能性素材事業の業績も改善するものと見ています。

上半期における減収減益を下半期で取り戻すのは、簡単なことではありませんが、現時点では、従来の連結業績予想を変更するまでには至っていないと判断し、通期連結業績、売上高190億円（前期比0.2%増）、営業利益11億500万円（同22.9%減）、経常利益13億円（同21.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益9億円（同24.8%減）の達成に向け一層努力したいと考えております。

なお当期の期末配当については、株主還元方針として安定配当を維持させていただく観点から、予定通り1株当たり11円（前期同額）を予定しています。

下半期の営業活動においては、上半期に感染防止対策として対面営業を自粛したため、拡販に向けた十分なアプローチができなかったことを反省し、お客様とのコミュニケーションを可能な限り復活させ、挽回につなげていく方針です。

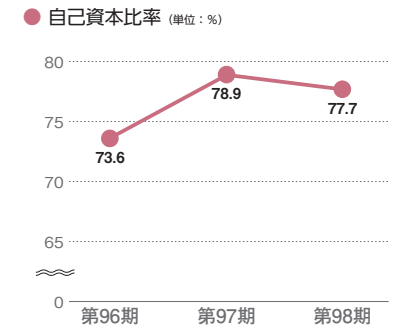
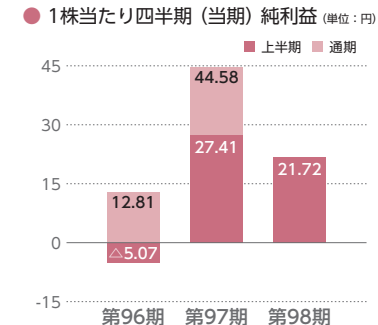
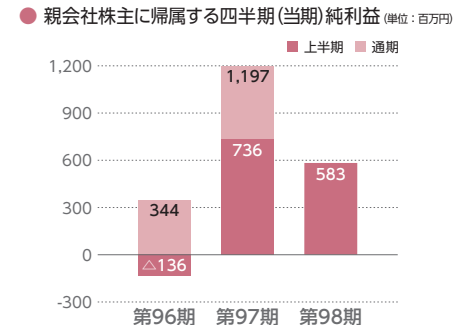
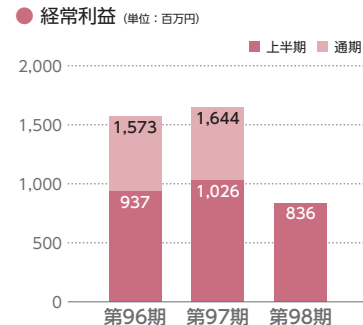
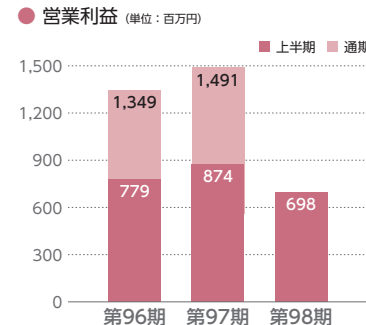
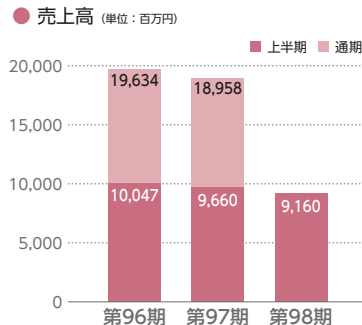
私たちの生活環境は、コロナ禍によって一変し、今なお感染リスクが払拭できない日々が続いています。そうした中でも日常生活の一部は、一定の制限を受けながらも元に戻りつつあり、世の中が動き出していることを感じます。

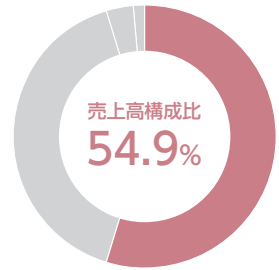
コロナ禍が一日も早く終息し、株主の皆様をはじめステークホルダーの皆様、そして世界中の人々が健康で平穏な日常を取り戻されますよう、心よりお祈り申し上げます。



連結業績ハイライト

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS



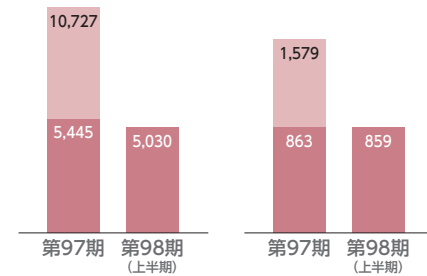


精糖事業

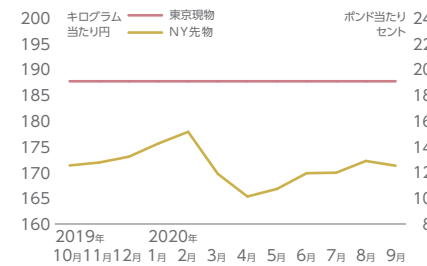
事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。



● 売上高 (単位：百万円) ● 営業利益 (単位：百万円)
■ 上半期 ■ 通期



● NY先物/東京現物 (月別平均相場)



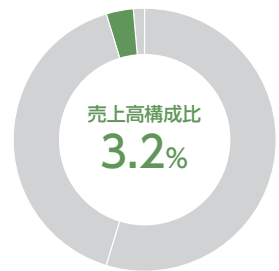
精糖事業につきましては、海外原糖市況は期初10.39セント（1ポンド当たり）で始まり、新型コロナウイルス感染症拡大による世界経済の減退からリスクオフの動きが継続し、4月末には直近10年間で最安値となる9.05セントを記録しました。しかし、その後はタイ国および欧州地域の減産観測や原油高、景気持ち直しへの期待感から反発をみせ、13.07セントにて当上半期末を終了しました。

期初	高値	安値	期末	平均
10.39	13.28	9.05	13.07	11.63

一方、国内製品市況は期初東京現物相場（日本経済新聞掲載）187円～188円（上白大袋1キログラム当たり）で始まり、そのまま当上半期末を迎えました。

製品の荷動きについては、新型コロナウイルス感染症拡大により、ゴールデンウィーク前の需要も落ち込み、いまだ回復には時間が掛かっているため、販売数量は前年同期を下回りました。利益面では堅実な原料糖仕入れにより原材料コストは抑えることができたものの、販売数量の減少をカバーするまでに至らず、若干ながら減益となりました。

この結果、売上高は5,030百万円（前年同期比7.6%減）、営業利益は859百万円（同0.5%減）の減収・減益となりました。

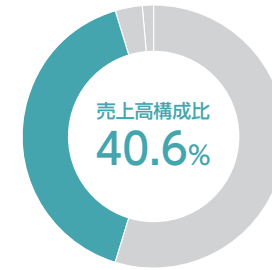


不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。



不動産事業につきましては、売上高は294百万円（前年同期比4.0%減）、営業利益は195百万円（同23.2%減）と本社移転に伴う費用の増加により減収・減益となりましたが、引き続き安定収益確保に貢献いたしました。

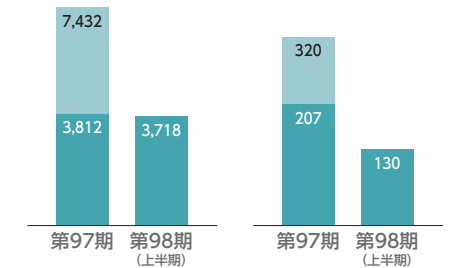


機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。



● 売上高 (単位：百万円) ● 営業利益 (単位：百万円)
■ 上半期 ■ 通期

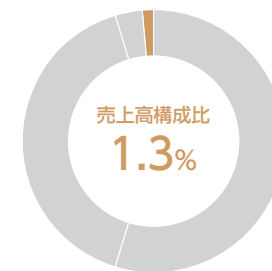


機能性素材事業につきましては、機能性食品素材「イヌリン」は、高付加価値提案型の販売により、国内および海外において健康素材としての注目も集まった結果、新規採用件数が増加し、前年同期比で増収となりました。

切花活力剤「キープ・フラワー」につきましては、家庭用商品は販売数量が増加しましたが、業務用は販売が低調であったため、減収となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により主力製品の販売が伸び悩み、減収となりました。

これらの結果、売上高は3,718百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益は130百万円（同36.8%減）の減収・減益となりました。



その他食品事業

事業内容：タイ国においてパンの製造販売を行っております。

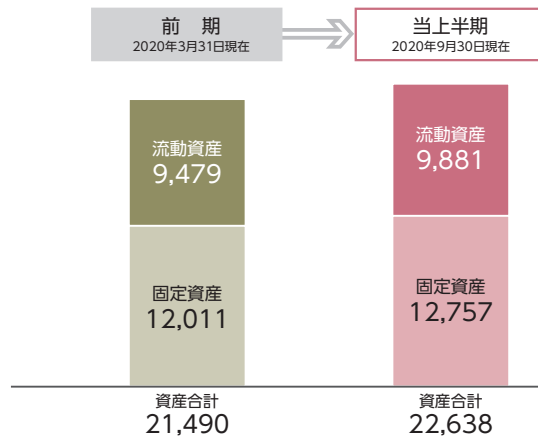


その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心でありますが、売上高は116百万円（前年同期比21.5%増）、営業損失は8百万円（前年同期 営業損失31百万円）の増収・増益となりました。

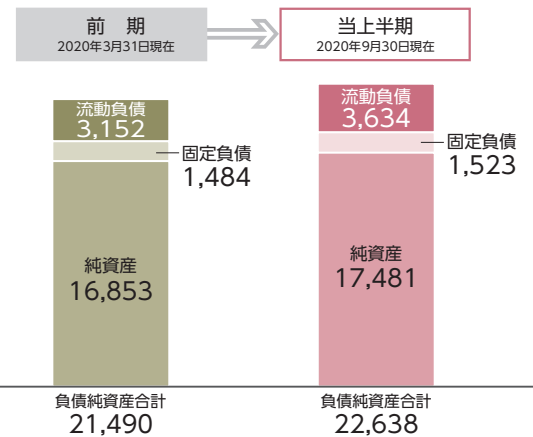


連結貸借対照表

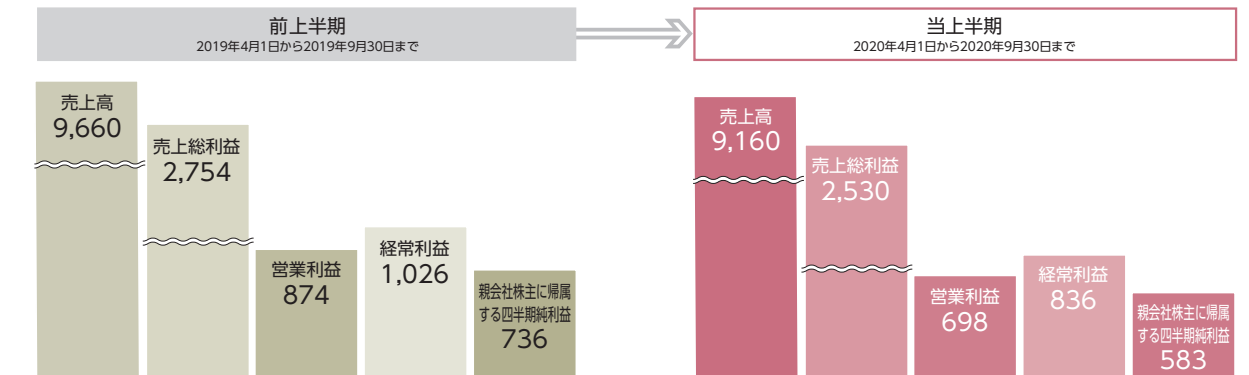
● 資産の部 (単位: 百万円)



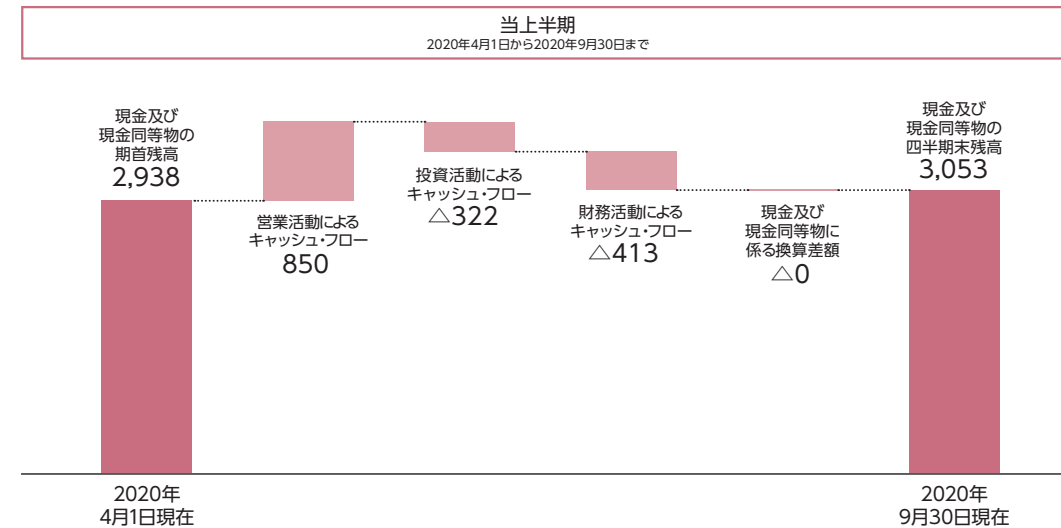
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ4.2%増加し、9,881百万円となりました。これは主として原材料および貯蔵品の増加等によるものであります。

また、固定資産につきましては、前期末に比べ6.2%増加し、12,757百万円となりました。これは主として投資有価証券の増加等によるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ15.3%増加し、3,634百万円となりました。これは主として買掛金の増加、未払法人税等の増加等によるものであります。

また、固定負債につきましては、前期末に比べ2.6%増加し、1,523百万円となりました。これは主として繰延税金負債の増加等によるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ3.7%増加し、17,481百万円となりました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等によるものであります。

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年)7月
資本金	1,524百万円
従業員数	55名
本社所在地	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd. FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd. UNITEC FOODS KOREA Co.,Ltd.
関連会社	太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社

役員

取締役会長	船越 義和
代表取締役社長	櫻田 誠司
取締役常務執行役員	関根 郁也
取締役	菊地 正男
取締役	高橋 明彦
取締役	山口 佳仁
常勤監査役	福田 弘
監査役	上平 徹
監査役	坪 好教

執行役員

常務執行役員	大口 真央
執行役員	和田 正
執行役員	吉水 あつ子

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

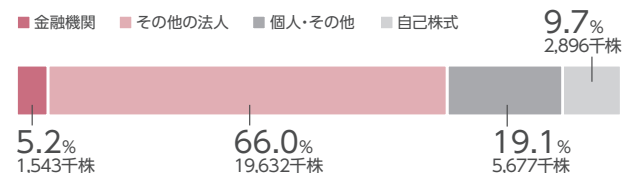
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	18,382名

大株主

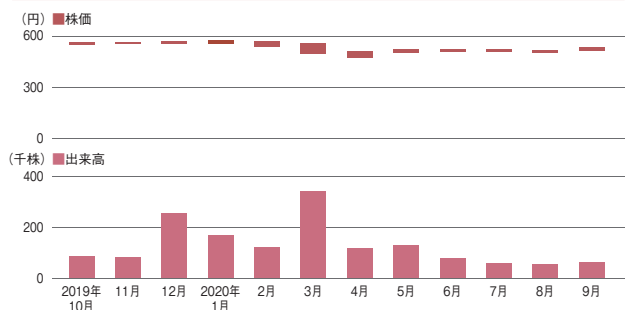
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
豊田通商(株)	2,459	9.2
鈴与(株)	1,902	7.1
和田製糖(株)	1,226	4.6
(株)静岡銀行	792	3.0
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7

(注) 1. 持株比率は自己株式(2,896千株)を控除して計算しております。
2. 2020年10月14日付で、公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、2020年10月9日現在で、和田製糖(株)が2,455千株(8.25%)、豊田通商(株)が1,229千株(4.13%)を保有している旨が記載されておりますが、当社として当上半期末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の持株数には含めておりません。

所有者別株式分布状況



株価の推移 (東京証券取引所実績)



本社移転について

本年9月、本社オフィスを東京都中央区日本橋茅場町1丁目4番9号から東京都中央区日本橋兜町6番7号に移転いたしました。

株主優待について

当社は、毎年3月31日現在で当社株式をご所有の株主の皆様には、所有株式数に応じた自社製品詰合せを、毎年6月に贈呈しております。

100株以上	1,000円相当の自社製品
1,000株以上	3,000円相当の自社製品

ホームページのご案内



当社のホームページでは、IR情報や商品情報、社会貢献活動などさまざまな情報を掲載しており、ネットショッピングもお楽しみいただけます。また、パソコンだけでなくスマートフォンやタブレットからも閲覧しやすいレイアウトになっておりますので、是非ご覧ください。当社は今後もウェブサイトの速報性を活かし、お客様・株主様にさまざまな情報を発信してまいります。

フジ日本精糖

<https://www.fnsugar.co.jp/>



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
基準日	3月31日 なお、中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場取引所	東京証券取引所
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載URL https://www.fnsugar.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

 **フジ日本精糖株式会社**

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号
兜町第7平和ビル7階

TEL : 03-3667-7811 <https://www.fnsugar.co.jp/>

UD
FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。